

令和元年6月27日現在

機関番号：10102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13212

研究課題名（和文）辟疆園杜詩註解研究

研究課題名（英文）Study on "Bijianyuan Dushi zhujie"

研究代表者

大橋 賢一（OHASHI, KENICHI）

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20451453

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：清・顧宸『辟疆園杜詩註解』について、版本学的な側面から、また内容的な側面の二点からその特色を明らかにした。前者については、国内及び中国の版本をできるだけ多く調査することで、それぞれの版本の特色について明らかにすることができた。とりわけ扉の有無に関する事柄については、従来言及されていないことであったので成果として注目に値すると考えられる。

また注釈の内容については、顧宸が清初における著名な蔵書家であることに着目し、注釈の精度が高いことを示唆することができた。いずれについても従来言及されてこなかった点を本研究で明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『辟疆園杜詩註解』は、日本において、江戸期に刊行された杜甫の注釈書の一つである。江戸期の人々が杜詩に関心をもっていたことは従来から指摘されていることではあるが、どの程度、関心が高かったのかは、具体的に不明な点が多い。『辟疆園杜詩註解』は中国において、銭謙益と関わりがあったことから、乾隆帝以降禁書の憂き目にあうが、日本においては、そうした弊害がなかったため、刊行されていたことがわかる。『辟疆園杜詩註解』が江戸期で刊行されたことは、日本人も『辟疆園杜詩註解』に価値を見出していたことを裏付ける。本研究を通して、日本人の鑑識眼の優れていたことを明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：I studied about Gu zhen's Bijianyuan Dushi zhujie. This book is notes for DuFu's poetry. I studied this notes from publish and feature. I went to many library in Japan and China. I found some this notes does not have title page. Many scholar did not notice this fact. We have to notice about this fact.

Also I can make this book's feature. This book's author, Gu zhen is famous book collector in Qing dynasty. He used these book, wrote this notes.

研究分野：中国古典文学

キーワード：杜甫 顧宸 辟疆園杜詩註解 清朝考証学

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19, CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

顧宸『辟疆園杜詩註解』は、杜詩叢刊、杜詩又叢にも収められていなかったことから、原典を確認することが難しい注釈書であったが、日本・中国の図書館に所蔵されている比較的閲覧しやすい書物であったことが本研究で確認できた。それだけ流布した杜詩の注釈書であったといえ、また注釈書として一定の支持を得ていたことが理解できた。

ただ、研究開始当初は該書の影印版がなかったことからその全貌を明らかにすることが難しかった。しかし、本研究をすすめるうちに、中国本土において本書が域外漢籍珍本文庫第五輯・集部（西南師範大学出版社・人民出版社，二〇一五年）の一つとして、国立公文書館本を影印出版したことで、全体像を把握することが容易になった。

こうした状況において、本書の版本的特色、並びに注釈書としての特色を明らかにすることができた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、当初は影印版がなかったことから、注としての特色を明らかにするというよりも、版本の系統を整理することを重視していた。研究の途中で国立公文書館本が影印出版されたとはいえ、尊経閣文庫本や鹿児島大学図書館本など、版本によって相違がいくつかみられたので、各図書館所蔵の『辟疆園杜詩註解』の相違を整理することを本研究の目的の一つとした。

一方で、この注の特色を明らかにするために、特異と考えられる注を検討しながら、本書の注としての特色を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

版本の整理については、可能な限り閲覧できる図書館に『辟疆園杜詩註解』を閲覧しに行く機会をもつけ、それぞれの違いを整理するという方法をとった。具体的な相違については下記の論文にまとめている。

また顧宸注の特色については、下記に示した論文においては、顧宸の年譜を活用し、論文については、顧宸注を用いて杜詩の細かな言葉遣いを検討することで、その注釈の価値を計った。

4. 研究成果

本研究費を得たことで、実現することができた最大の成果は、日本及び中国の図書館に所蔵されている『辟疆園杜詩註解』を実見することができたことにある。北海道は地の利がないため勢い全国の図書館に出向く必要があるが、南は鹿児島大学図書館、また都内の図書館——東洋文庫・尊経閣文庫・国立公文書館・慶応大学図書館・京都大学図書館——に足を運ぶことができたのは、ありがたいことであった。また、中国についても、北京と上海という大都市に限定されたが、中国国家図書館、北京師範大学附属図書館、上海図書館と三館を訪問することができたことも、数こそ多くはないが、『辟疆園杜詩註解』の版本研究をすすめる上で成果が上がったと思う。ただ、調査において残念だったことは、北京師範大学附属図書館所蔵の版本が修復中で閲覧不可能であったこと、同じく北京文物局にも所蔵されていることが確認できたが、現在善本データを構築している最中で閲覧が不可であったことであった。

注意しておきたいのは、『中国善本書目』に記録されていない図書館にも、『辟疆園杜詩註解』の蔵書が確認できたことである。中国国家図書館、北京師範大学附属図書館蔵本の両書はそれに該当するものである。

以下、下記に示した論文で言及できなかった国家図書館蔵本・北京師範大学図書館蔵本について簡単に触れておきたい。前者は帙入りのものでなく、洋装本として製本されているものであった。傷みがひどいため、目録や序文を含む最も閲覧したかった1～3冊目をまとめたものは、閲覧不可であった。4冊目以降のうちわけは次の通りである。

4冊：七律巻4・5，5冊：五律巻1，6冊：五律巻2，7冊：五律巻3，8冊：五律巻4・5，9冊：五律巻6・7，10冊：五律巻8・9，11冊：五律巻10・11，12冊：五律巻12

興味深かったのは銭謙益の名が墨塗してあった点である。論文に示したように、乾隆年間以降、銭謙益の書は発禁となった。『辟疆園杜詩註解』には銭謙益の評が散見されるが、それらが黒塗りにされていたということは、この書の所蔵者が乾隆年間以降の人物であったことを裏付ける。また銭謙益の名が見えながらも、該書を維持しつつきたことから推すとやはり、所蔵者が該書の価値を認めていたと判断できる。

北京師範大学所蔵鈔本『辟疆園杜詩註解』については、抄写者は不明、抄写時期も不明である。ただ、銭謙益の名前が列記されていることから推すと、乾隆年間以前に抄写された可能性があろう。あるいは、辛亥革命以降のものである可能性も否定できない。

本書は全ての詩が抄写されているわけではなく、巻二に至るまでのいくつかの詩を抜粋しながら抄写したものである。版本的な価値はないが、本書が抄写するに値する本と認めた人物がいたことを裏付けるものである。また、この鈔本は、本書の影響の大きさを裏付けていると考えられる。

また、簡単に顧宸注の特色を整理した論文の成果について、紹介しておきたい。論文は、顧宸の年譜を活用したものであるが、対するは、『辟疆園杜詩註解』に見られた注釈を利用

しながら杜詩に関して考察をしたものである。 は、「乾坤」を「日月」を解釈する例として、顧宸の注を引用し考察したもの。 は、「呉郎」の「郎」という呼称に関する顧宸の注を踏まえ「郎」について考察した。これらの研究結果から、本書には、論文に関わるような問題提起がされているということ、また解釈にも活用できることを示すことができたと思う。また では、『辟疆園杜詩註解』が集部の書に対して注をつけていることに着目し、清朝考証学史において無視できない注釈書であることを論じた。以上の研究を通して、改めて『辟疆園杜詩註解』の価値を再発見することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

大橋賢一「清・顧宸『辟疆園杜詩註解』について」(『杜甫研究年報』2号, 27-43頁, 2019年)

大橋賢一「杜甫「又呈呉郎」の棗について」(『語学文学』57号, 3-12頁, 2018年)

大橋賢一「「浮」かんでいるもの-杜甫「登岳陽楼」における「乾坤日夜浮」の解釈をめぐって-」(『中唐文学会報』25号, 21-30頁, 2018年)

大橋賢一「杜詩用韻小考-「農」字について-」(『旭川国文』26号, 30-40頁, 2016年)

〔学会発表〕(計4件)

大橋賢一「清・顧宸『辟疆園杜詩註解』について」(第2回日本杜甫学会大会 於早稲田大学, 2018年10月)

大橋賢一「「浮」かんでいるもの-杜甫「登岳陽楼」における「乾坤日夜浮」の解釈をめぐって」(第28回中唐文学会大会 於山形大学, 2017年10月)

大橋賢一「杜詩と棗」(平成29年度語学文学学会学術研究会 於北海道教育大学釧路校, 2017年)

大橋賢一「杜詩用韻小考-「農」字について-」(国語国文学会第175回月例会 於北海道教育大学旭川校, 2016年)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等 論文 を本学レポジトリで一般公開している。

6. 研究組織

(1)研究分担者 0名

(2)研究協力者 1名
研究協力者氏名：大本 健太
ローマ字氏名：Ohmoto kenta

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。